

重要課題（マテリアリティ） 中長期の環境変化を捉えた重要課題（マテリアリティ）

● 中長期の環境変化を捉えた重要課題（マテリアリティ）

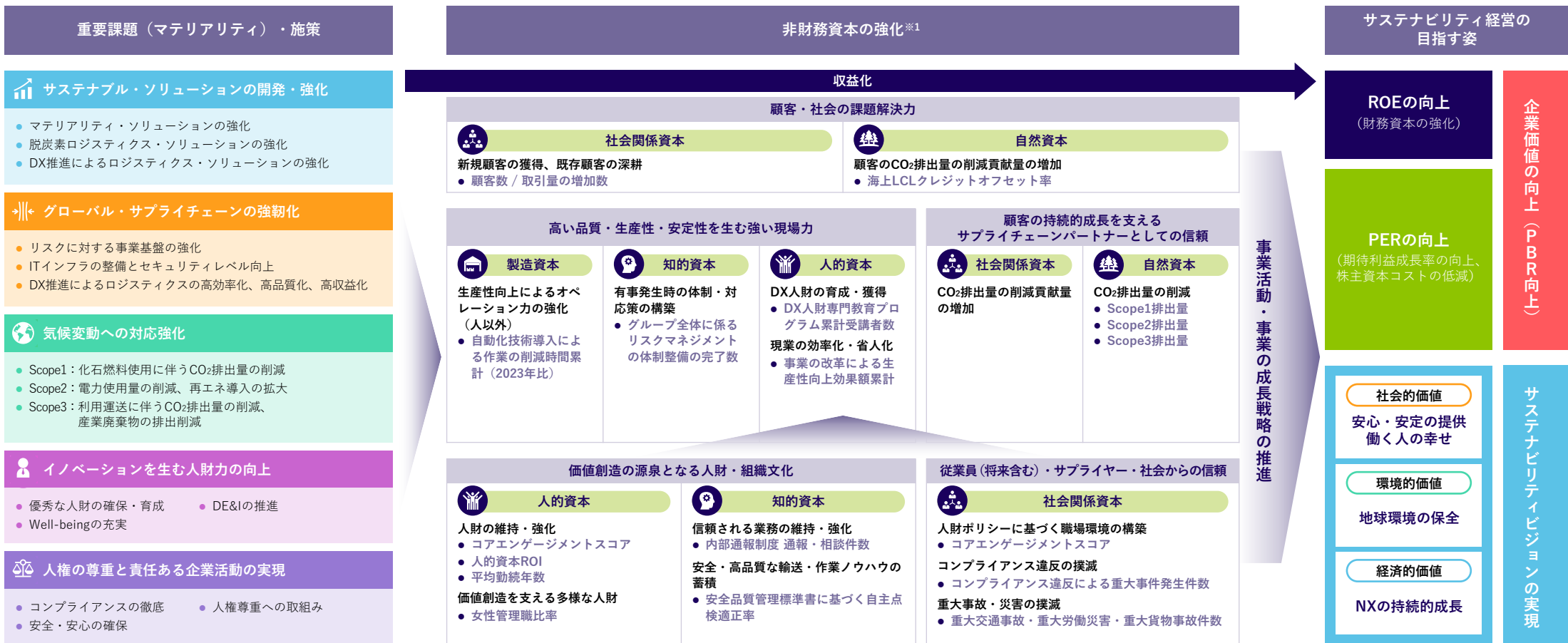
重要課題 （マテリアリティ）	選定理由	自社へのインパクト		環境・社会へのインパクト※1	事業を通じた 価値創出	価値創出の 源泉	価値の毀損の 回避
		リスク	機会				
サステナブル・ソリューションの 開発・強化	あらゆる企業において、その事業が立脚する自然環境や社会・産業の持続性が重視されているため、社会・産業全体の維持・最適化を図るサービスを提供する	社会課題へのソリューションを提供する競合への既存顧客の移行	顧客ニーズへの対応による売上拡大	社会的価値 - 事故災害のない安全な社会の実現 環境的価値 - カーボンニュートラル社会実現への貢献 - 循環型社会への貢献 経済的価値 - イノベータティブな社会の実現	○		
グローバル・サプライチェーンの 強靱化	社会インフラを支える企業として、自然災害やパンデミック等の非常事態、労働人口減少においても物流を維持することで社会の安定に貢献する	- オペレーション停止による顧客からの信頼毀損 - 人財不足による事業成長の阻害	安定したサービス提供への信頼向上による売上拡大	社会的価値 安定的なサプライチェーンの実現	○		○
気候変動への 対応強化	政府による 2050 年カーボンニュートラル宣言や気候変動への国際社会の強い要請に応え、コーポレートシチズンとしての責務を果たす	- 顧客やサプライヤーからの取引停止リスク - 環境対策を進める競合への既存顧客の移行	顧客ニーズへの対応による売上拡大	環境的価値 カーボンニュートラル社会への貢献			○
イノベーションを生む 人財力の向上	自社事業の価値の源泉である従業員に対して投資することで、従業員の Well-being の追求、エンゲージメント向上、多様な人財の能力発揮を促し、価値創出の基盤を強固にする	- 高い専門性を有する人財の維持・獲得リスク - 現場での人手不足による競争力低下	- 人財育成を通じた生産性・品質向上 - イノベーションの促進	社会的価値 - 働く人の幸せ - 公平で安定的な雇用の提供 経済的価値 - 選ばれ続けるロジスティクスカンパニー		○	○
人権の尊重と 責任ある企業活動の 実現	コーポレートガバナンス、腐敗防止や人権尊重への社会からの要請に応え、強固な事業基盤を醸成し、従業員・社会から信頼される企業であり続ける	- 訴訟リスク - 顧客やサプライヤーからの取引停止リスク	レピュテーション向上による人財獲得や顧客・取引先開拓の効率向上	社会的価値 - 事故災害のない安全な社会の実現 - 働く人の幸せ - 公平で安定的な雇用の提供 経済的価値 - 選ばれ続けるロジスティクスカンパニー - 公平で安定的なビジネス機会の提供		○	○

※1 環境・社会へのインパクトの記載は、サステナビリティ経営の目指す姿として、サステナビリティビジョンで定義している「社会的価値・環境的価値・経済的価値」に沿って記載。サステナビリティビジョンの詳細は、[P.2](#)を参照。

重要課題（マテリアリティ） 重要課題（マテリアリティ）への取組みによる非財務資本の強化、目指す姿の実現

● 重要課題（マテリアリティ）への取組みによる非財務資本・財務資本の強化、目指す姿の実現

サステナビリティ経営における重要課題（マテリアリティ）への取組みを進めることで非財務資本の強化を図り、強化した非財務資本を基に事業活動を行うことで、企業価値を向上していくとともにサステナビリティビジョン実現も目指していきます。



※1 非財務資本の強化の進捗は統合報告書P.48を参照

重要課題（マテリアリティ） サステナブル・ソリューションの開発・強化

● サステナブル・ソリューションの開発・強化

重要課題（マテリアリティ）の取組みの詳細と企業価値へのつながり

アクティビティ		2023年実績	2024年実績 (達成率)	2024年目標	2028年目標	目標設定項目	サステナビリティ経営の 目指す姿
マテリアリティ・ソリューションの強化	● 顧客の重要課題の把握とソリューションの検討	顧客の重要課題に対するソリューションの開発・強化				顧客のマテリアリティを解決するソリューションの創出	顧客数・取引量増加
		省エネ / 創エネ / 再エネ / 資源循環 / 3R 事業の開発・強化					
脱炭素ロジスティクス・ソリューションの強化	● モーダルシフトの拡大 ● 低炭素輸送の開発・提供 ● 顧客のCO ₂ 排出量可視化	鉄道輸送：年3.9%増（総販売数・千t）※3	6,277	6,181（95%）	6,521	物流におけるCO ₂ 排出量の可視化と削減の実現	顧客数・取引量増加
		内航海運：年1.8%増（総販売数・千t）※3	2,018	2,048（97%）	2,110		
		Sea & Rail：年5%増（総販売数・千t）※3	9.8	13.5（119%）	11.3		
		プロテクトBOX拡販：年5%増（販売総基数・千基）※3	37.7	47.2（112%）	42.0		
		環境価値付加輸送の開発 海上LCLクレジットオフセット率（%）	100	100（100%）	100		
		輸送排出量可視化ツールの利用促進と機能強化 （NX-GREEN Calculator）	39,403	91,242	既存顧客深耕 および新規顧客獲得		
DX推進によるロジスティクス・ソリューションの強化	● 共創パートナーおよび新規事業のタネ発掘と創造 ● DX人材の育成強化	事業の創造による利益貢献額（億円）	-	11（275%）	4	顧客・産業SCの変化に対応し得るロジスティクスの柔軟化・最適化	● 事業の創造による利益貢献額累計 2028年目標：87億円
		DX人材専門教育プログラム累計受講者数（人）	20 ※1,3	80(100%) ※1,2,4	80※5		

事業活動・事業の成長戦略の推進

● ROE
● PER
● 期待成長率
● 株主資本コスト低減

社会的価値
● 事故災害のない安全な社会の実現

環境的価値
● カーボンニュートラル社会実現への貢献
● 循環型社会への貢献

経済的価値
● イノベティブな社会の実現

企業価値の向上

サステナビリティ
ビジョンの実現

※1 NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社 ※2 日本国内グループ会社（日本通運株式会社含む） ※3 日本通運株式会社 ※4 日本通運株式会社60人、日本国内グループ会社20人 ※5 NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社、日本国内グループ会社（日本通運株式会社含む）

アクションプラン

目標	課題	進捗状況（通年） / 今後の予定
脱炭素ロジスティクス・ソリューションの強化	● 可視化ツールの展開・活用 ● ソリューションの開発・展開 ● 新技術に関連したビジネスの研究	● モーダルシフトの拡大 ● 日本通運株式会社は新規航路としてSee & Railの5航路を構築。新幹線を利用した輸送スキームを構築し、2025年2月販売開始
		● 低炭素輸送の開発・提供 ● NX-GREEN SAF Programの日本でのサービス提供開始 ● 成田国際空港を舞台としたSAF利用促進プロジェクトに参画 ● 日本通運株式会社が東京都のSAF活用促進事業に貨物代理店として選定 ● NX-GREEN Ocean Programによる環境価値を付加したNVOC商品の提供開始
DX推進によるロジスティクス・ソリューションの強化	● データ利活用に向けた課題抽出、課題解決への取組み、SaaS型ユースケース創出 ● サプライチェーンの課題を解決するビジネスモデル構築	● NXグループが考える両利きのDX戦略 ● 浜松新倉庫のDX化、DCX（デジタルコマースセールス部）、WAN-Scan-そのまま電子化プラン（NXワンビシ）などにより効果を創出 ● 2023年から国内グループ会社に対し、「DXプロジェクトリーダー研修」を実施 ● 2025年は、国内および海外グループ会社に対しても「DXプロジェクトリーダー研修」を実施予定 ● 航空混載仕立ての自動化や小売業向けの物量予測に関する取組みが進捗しており、2025年度に業務実装を予定

重要課題（マテリアリティ） グローバル・サプライチェーンの強靭化

● グローバル・サプライチェーンの強靭化

重要課題（マテリアリティ）の取組みの詳細と企業価値へのつながり

アクティビティ		2023年実績	2024年実績 (達成率)	2024年目標	2028年目標	目標設定項目	サステナビリティ 経営の目指す姿
リスクに対する 事業基盤の強化	● 安定的な事業継続のためのリスク管理 ● 非常時の事業継続のための危機管理	グループ全体に係るリスク管理の体制整備				重要リスクの低減	事業活動・事業の成長戦略の推進
		重要リスクの特定					
		グループ各社でのBCP策定推進					
		グループ各社での危機管理訓練の実行・支援					
ITインフラの整備と セキュリティレベル 向上	● ITインフラにおける非常時への対策強化 ● サイバーセキュリティの強化	BCP 採択訓練の RTO※1達成率 (%) ※7	100	100 (111%)	90以上	重大セキュリティ インシデント の撲滅	● ROE ● PER ● 期待成長率 ● 株主資本コスト低減
		従業員のセキュリティ教育の受講率 (%)	94	97 (108%) ※5,7,8	90以上		
		攻撃型メール訓練の通報率 (%) ※2,3	31.36～72.31 ※5,7,8	32.2～74.5 ※5,7,8,9	80以上		
		攻撃型メール訓練の開封率 (%) ※2,3,4	3.39～8.71 ※5,7,8	0～26.4% ※5,7,8,9	10未満		
DX推進による ロジスティクスの 高効率化、高品質化、 高収益化	● 業務の効率化 ● データ活用によるリソース最適配置 ● DX人材の育成強化	事業の改革による生産性向上貢献額 (億円)	—	63 (70%)	90	人とデジタルの 調和による ロジスティクスの 強靱化	社会的価値 ● 安定的なサプライチェーンの実現
		自動化技術導入による作業の削減時間累計 (2023年比、万h)	—	▲58.44 (270%)	▲22		
		DX人材専門教育プログラム累計受講者数 (人)	20 ※7	80 (100%) ※6	80 ※5,6		

※1 RTO：目標復旧時間 ※2 2023年度実績は、年間2回の訓練における各社の実績値。また、2023年度は攻撃型メール訓練の展開・初期運用中である点には留意が必要 ※3 2024年度実績は、年間4回の訓練における各社の実績値。 ※4 開封率は、各回の訓練メールの内容に依存する点には留意が必要 ※5 NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社 ※6 日本国内グループ会社（日本通運株式会社含む） ※7 日本通運株式会社 ※8 NXキャッシュ・ロジスティクス株式会社 ※9 NX情報システム株式会社

アクションプラン

目標	課題	進捗状況（通年）/ 今後の予定	
リスクに対する 事業基盤の強化	● 安定的な事業継続のためのリスク管理 ● 非常時の事業継続のための危機管理	● リスク管理 ・グループ全体でのリスクマネジメント体制整備の推進 ・グループ全体でのリスクの棚卸・評価の実施、重要リスクの特定（毎年） ・グループ全体でのリスクマネジメント研修の実施（毎年）	● 危機管理 ・グループ各社におけるBCP整備推進 ・NXHD・日本通運の経営層対象の災害対策統括本部訓練の実施（毎年）、グループ各社での危機管理訓練実施・支援
ITインフラの整備と セキュリティレベル向上	● 既存データセンターの老朽化に伴う対応 ● セキュリティリテラシー向上 ● ネットワークセキュリティ強化 ● コミュニケーション基盤のセキュリティ強化	● データセンターBCP訓練の実施 ● 日本通運株式会社におけるデータセンターの移転完了 ● セキュリティ教育の実施 ● 不審メール対応訓練の実施	● ネットワークセキュリティ強化計画を策定 ● コミュニケーション基盤への接続認証強化を実施
DX推進による ロジスティクス の高効率化、高品質化、 高収益化	● デジタル化（一次的生産性向上）→グループウェアの開発と活用→データのグループ間利用（二次的生産性向上） ● データ生成・蓄積の検討、データ生成・蓄積の実施	● 業務の効率化 ・RPA（全グループ）、RFIDピッキング台車（NX中国）、デジタルホワイトボード（デジタルコマースセールス部）などにより効果を創出。生産性向上施策の推進に取り組む ・航空混載仕立ての自動化や小売業向けの物量予測に関する取組みが進捗しており、2025年度に業務実装を予定	

重要課題（マテリアリティ） 気候変動への対応強化

● 気候変動への対応強化

重要課題（マテリアリティ）の取組みの詳細と企業価値へのつながり

アクティビティ		目標設定項目	サステナビリティ経営の 目指す姿	
Scope1の削減	環境配慮車両の導入	Scope1,2排出量の削減（千t-CO₂） 2023年実績：748 2026年目標：641 2024年実績：719 2028年目標：537 	- ROE - PER - 期待成長率 - 株主資本コスト低減	企業価値の向上
Scope2の削減	- 省エネ：LED照明切替等 - 創エネ：再エネ発電設備の導入促進 - 再エネ：環境価値の利用などによる再エネ由来電力の使用			
Scope3の削減	- モーダルシフト - サプライヤーエンゲージメントの取組み 利用運送における排出量の把握（輸送モード別、トンキロ法）2024年目標：可視化ツール導入	Scope3排出量の削減※1（前年比、%） 2023年実績：－ 2026年目標：▲2.5 2024年実績：－ 2028年目標：▲2.5 	環境的価値 カーボンニュートラル社会 実現への貢献	サステナビリティ ビジョンの実現

事業活動・事業の成長戦略の推進

※1 利用運送を含むScope3のカテゴリー1（購入した製品・サービス）が対象

アクションプラン

目標	課題	進捗状況（通年） / 今後の予定
Scope1の削減	- 化石燃料使用に伴うCO₂排出量の削減 - 環境配慮車両の導入 - バイオ燃料の導入	- 日本国内グループを中心とした環境配慮車両の導入 - NX商事株式会社では海上で燃料を供給するバンカー船「愛光丸」にてバイオディーゼル燃料B24を使用
Scope2の削減	- 電力使用量の削減 - 省エネ：LED照明切替等 - 創エネ：再エネ発電設備の導入促進 - 再エネ：環境価値の利用などによる再エネ由来電力の使用	- グループ各社におけるLED照明への切替え - 株式会社NXワンビシアークाइズ、日通NECロジスティクス株式会社等で、空調省エネシステムや静電気除去シート等を導入 - NX HD全体での太陽光発電（PPAスキーム）の活用促進 - 株式会社NXワンビシアークाइズ、大阪倉庫株式会社、NX商事株式会社における非化石証書の利用 - NX HD全体での再生可能エネルギー電力の導入を推進（NXグループビル使用電力を100%再エネ電力に切替え）
Scope3の削減	- 利用運送に伴うCO₂排出量の削減 - 低酸素輸送商品の開発によるSAF、SMFの活用 - モーダルシフトの取組み推進	- SAFを利用した航空貨物輸送サービス「NX-GREEN SAF Program」の日本でのサービス提供を開始 - 海上輸送と鉄道輸送を組み合わせたモーダルコンベネーション型輸送サービス「Sea & Rail」を拡充

重要課題（マテリアリティ） イノベーションを生む人財力の向上

● イノベーションを生む人財力の向上

重要課題（マテリアリティ）の取組みの詳細と企業価値へのつながり

アクティビティ		2023年実績	2024年実績 (達成率)	2024年目標	2028年目標	目標設定項目	サステナビリティ経営の目指す姿	
優秀な人財の確保・育成	● グループ経営人財の育成 ● グローバル人財の確保・育成	サクセッションプランの活用				多様で優秀な人財の充実 ● 自律 / 挑戦・変革・誠実さ サービススコア (pt) 2023年実績：68 2024年目標：69以上 2024年実績：68 2028年目標：73以上	事業活動・事業の成長戦略の推進	
		ポストキャリアによる配置数 (ポスト)	35	135 (113%)	120以上			120以上
		人財ポートフォリオの作成・活用						
		グローバル人財育成関連研修の参加者数 (人)	883	1,033 (103%)	1,000以上			1,000以上
Well-beingの充実	● エンゲージメントの向上 ● 社員のキャリア支援 ● リスキリングによるキャリアの充実	アブセンティーズム (日) ※1				一人ひとりのパフォーマンス向上 ● ワークエンゲージメントスコア (pt) 2023年実績：71 2024年目標：72以上 2024年実績：71 2028年目標：76以上	総合力※3の向上 ● NXコアエンゲージメントスコア (pt) 2023年実績：71 2024年実績：72 2024年目標：72以上 2028年目標：76以上	
		男性の育児休業取得率 (%) ※1	34.6	46.8% (94%)	50以上			70以上
		キャリア支援の充実						
		リスキリングによる計画の人員再配置						
DE&Iの推進	● 女性活躍推進 ● 外国人材の活躍推進 ● 障がい者雇用推進 ● インクルーシブな職場風土の構築	女性管理職比率 (%) ※1				インクルーシブな職場風土の構築 ● DE&Iサービススコア (pt) 2023年実績：63 2024年目標：64以上 2024年実績：66 2028年目標：68以上	社会的価値 ● 働く人の幸せ ● 公平で安定的な雇用の提供 経済的価値 ● 選ばれ続けるロジスティクスカンパニー	
		日本リージョンにおける外国籍人財の環境改善						
		障がい者雇用率 (%) ※2	2.34	2.47 (99%)	2.5以上			2.7以上
		心理的安全性サービススコア (pt)	64	65 (100%)	65以上			69以上

※1 日本国内主要6社 ※2 NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社および、グループ適用認定会社の合算値（障がい者雇用促進法に基づいて算出） ※3 「総合力」＝「多様で優秀な人財の充実」＋「一人ひとりのパフォーマンス向上」＋「インクルーシブな職場風土の構築」

アクションプラン

目標	課題	進捗状況（通年） / 今後の予定
優秀な人財の育成・確保	● ポスカリGの拡大・推進 ● 人財ポートフォリオの作成・活用 ● グローバル人財の確保・育成	● ポスカリGでは307人が応募し、うち78人が合格・異動 ● 2024年度NXHDにてフォーカスする人財領域・区分を検討し、強化・検討すべき人財を5区分に分け設定 ● 今後、日本通運株式会社では、2025年度、事業部門と合同で具体的な人財に関する課題を検討の上、課題解消に向けた人事施策の検討を開始予定 ● その他の主要国内グループ会社についても、基本的なプロセス等の進め方を整理したアウトラインをNXHDより共有する等、各社課題を踏まえた人財ポートフォリオの作成・活用が推進される仕組みを構築予定
Well-beingの充実	● NXコアエンゲージメントの向上 ● 社員のキャリア支援 ● リスキリングによるキャリアの充実	● 日本通運株式会社の全管理職向けに、インクルーシブな職場づくりを中心とした「支援型マネジメント研修」を実施中（2025年12月に全員修了予定）。今後、受講対象者をNXグループ全体に広げていく予定 ● NXグループキャリア支援方針を策定し、研修等と連携したキャリアカウンセリングの提供を開始 ● キャリア支援専用ポータルによる情報発信や、希望者がいつでもカウンセリングを受けられる相談窓口の設置を予定 ● 「まなVIVA！」というグループ内共通の学習プラットフォームを構築し、ITリテラシーに関する研修など学びの機会の拡充 ● 新たな職務、職域への挑戦を支援する制度として国内業務研修員制度を拡充
DE&Iの推進	● 女性活躍推進 ● 障がい者雇用推進	● 2024年度は国内G女性リーダーを対象に、キャリア意欲の醸成、ネットワーク構築を目的とした研修、キャリアアップワークショップを実施（2回計60人受講）。2025年度も内容を見直しながら継続実施し、女性のキャリアアップを支援予定 ● 特例子会社であるNXハートフル株式会社に事務センターを新設 ● グループ各社から切り出された業務を請け負い、障がい者の雇用を拡大しており、今後も業務の拡大を予定。また、雇用率を達成していないグループ会社について就労支援を実施中

重要課題（マテリアリティ） 人権の尊重と責任ある企業活動の実現

● 人権の尊重と責任ある企業活動の実現

重要課題（マテリアリティ）の取組みの詳細と企業価値へのつながり

アクティビティ			目標設定項目		サステナビリティ経営の 目指す姿	
コンプライアンスの 徹底	- グループ各社におけるグローバル内部通報制度の導入 - コンプライアンス教育の実施 - モニタリングの実施	従業員におけるコンプライアンス教育の実施	コンプライアンス違反の撲滅	コンプライアンス違反による法的措置を伴う重大事件発生件数 2023年実績：0件 2024年実績：0件 2024年目標：0件 2028年目標：0件	事業活動・事業の成長戦略の推進	企業価値の向上
		グローバル内部通報制度の導入				
安全・安心の確保	グループでの労働安全の推進	安全品質管理標準書に基づく自主点検実施	- 重大交通事故・重大労働災害・重大貨物事故の撲滅 - 交通事故・労働災害発生の低減			社会的価値
		各社安全推進担当者の任務遂行、安全推進担当者会議の継続実施				
人権尊重への取組み	- 人権方針および調達方針の策定 - 人権リスクの特定・評価 - 人権リスクの予防・是正 - 人権取組み推進体制の構築	安全推進担当者向け研修の実施	事業活動における人権の尊重		経済的価値	
		2023年実績：実施済み 2024年実績：実施済み 2028年までの目標：毎年実施				選ばれ続けるロジスティクスカンパニー
		自社と一次サプライヤーにおける人権デューデリジェンスの実施				公平で安定的なビジネス機会の提供
		サプライヤーマネジメントの対応方針の策定				
		苦情処理メカニズムの構築				
		各階層別の研修プログラムの作成・実施				

アクションプラン

目標	課題	進捗状況（通年）/ 今後の予定	
コンプライアンスの徹底	- グローバル内部通報制度の周知徹底 - コンプライアンス研修の実施 - モニタリングの実施	- グループ全体でのコンプライアンス・プログラムの実施 - グループ共通のコンプライアンスおよび内部通報制度に関する各種啓発資料の作成、展開（ハンドブック、ポスター、カレンダー、ブックレット等） - グループ全体でのコンプライアンス研修、および贈収賄防止コンプライアンス研修の実施（毎年）	- グループ各社におけるコンプライアンス活動状況を集約し、NXHDコンプライアンス委員会にてモニタリング（毎四半期） - 日本リージョンにおけるグループコンプライアンス推進者会議の実施（毎年）
安全・安心の確保	- グループ全体での安全文化の醸成 - グローバル安全品質マネジメントの推進	- グループ各社における安全トップマネジメントレビューの実施（毎年） - グループ全体での安全推進担当者会議の実施（年2回） - グループ全体での安全推進担当者研修の実施（毎年）	- 東アジアリージョン、および南アジア・オセアニアリージョンにおける安全技能研修の実施（年数回） - グループ各社における安全品質管理標準書に基づく自主点検の実施（毎年）
人権尊重への取組み	- 人権デューデリジェンス体制の整備 - サプライヤーマネジメントの整備、構築 - 苦情処理窓口の整備	- NXグループの人権デューデリジェンス - 国内外のグループ会社101社における人権リスクの分析・把握、予防・是正措置の実行に向けた体制を整備	- サプライヤーへの取組み拡大 - 各リージョンの特性を考慮したサプライヤーマネジメント体制構築に係る方針を決定 - 一部のグループ会社において運送業務委託先数社への人権デューデリジェンス開始に向けた体制を整備